

平成26年度 学校評価実施報告書

(別添様式3)

学校名(京都市立藤城小学校)

3 2回目評価

重点評価項目について評価・改善していくための個別評価項目の設定 ・各項目にわらいを定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定						自己評価		学校関係者評価		
・アンケート実施結果、その他指標の結果について整理						評価日	平成27年2月2日	評価日	平成27年2月27日	
						評価者・組織	学校評価委員会	評価者(いずれかに○)	学校運営協議会 学校評議員	
分野	評価項目	自校の取組	アンケート項目・各種指標	アンケート結果・各種指標結果	分析(成果と課題)	自己評価に対する改善策	学校関係者評価による意見	学校運営協議会・学校評議員による改善に向けた支援策		
1	確かな学力	わかる授業の創造 情報活用能力の育成 読書活動の充実	各教科での言語活動のさらなる充実 年1人1回の研究授業 各教科におけるICT活用情報モジュールに関わる授業の取組 100冊読書の定着朝読書の確実な実施	児童の話す・聞く態度の変容・ジョイントプログラムの結果 コンピュータやデジタルカメラなどを使うことができますか 読書タイム以外で読書をしていますか。家の人といっしょに本を読んだり、図書館に行ったりしますか。	勉強がよくわかると回答した児童が2%増え、95%であった。 全児童の84%ができると回答している。 読書タイム以外では61%できているが、図書館利用は44%と低くなっている。	⇒	・ジョイントプログラムはどの学年も前回の数値を上回る結果であった。 ・JAET京都大会ではICT機器を活用した授業を公開する中で、情報活用に焦点を当てた授業実践ができた。 ・読書タイム以外で読書できていると意識している児童が8%減少した。	⇒	・一人一人の課題を明確にし、すべての児童の学力定着を図る。 ・学年で教材研究に取り組み、公開授業を実践することで指導者の授業力を向上させる。 ・前期に引続き、「自学自習」を懇談会等で啓発していく。 ・お便りや懇談会で家庭での読書習慣の定着を啓発する。	
	2	豊かな心	豊かな心の充実 挨拶や望ましい言葉づかいの徹底 豊かな体験活動の充実	年間計画による人権教育の授業実践 児童会を中心とした発信と地域ぐるみの取組 自然体験活動・社会体験活動の取組 全校合唱	相手の気持ちを考え、行動していますか。自分には良い所がありますか。 子どもは望ましい言葉づかいができていると思いますか オータムフェア・防災訓練・もちつき大会へ児童スタッフとして参加	相手の気持ちを考え、行動していると回答した児童は92%であった。自分の良い所は80%が自覚している。 児童は94%できていると意識しているが、保護者からは67%と低い。 6年児童が児童スタッフとして地域行事に参加した。	⇒	・挨拶ができていると意識している児童は前期と変わらない結果であった。 ・後期もオータムフェスタ・防災訓練・もちつき大会に高学年が児童スタッフとして参加し、意欲的に活動した。	⇒	・年度当初に比べ、「挨拶する」という意識が薄れてきた児童も見られる。 ・やや言葉づかいが乱暴になってきた児童がいる。 ⇒地域行事の児童スタッフとして意欲的に取り組んでいた。
		3	健やかな体	基本的な生活習慣の確立 体力の向上	早寝・早起き・朝ごはんの呼びかけ バランスのとれた食事	早寝・早起き・朝ごはんなど規則正しい生活はできていますか 好き嫌いをせずにバランスよく食べていますか。	⇒	・前期に比べ、早寝していると回答した児童は特に2・3・6年の数値が減少した。 ⇒ ・1月末現在、う歯治療率が42%と低い。	⇒	・基本的な生活習慣の定着を目指し、保健室だよりだけでなく、学級通信等でも積極的に啓発していく。 ・保護者に働きかけ、う歯治療率を高めていく。
4	独自の取組	小中一貫教育の推進 情報発信の充実	・中学生による読み聞かせ会の実施 ・藤森中学校オープンスクールの実施 積極的なホームページの更新	・低学年児童の感想文 ・中学校の授業体験 ・給食試食の様子とクラブ見学 学級・学校だより、ホームページなどで学校様子がわかりますか	・藤森中学校オープンスクールでは6年生が中学校の授業を体験し、意欲的に取り組んだ。 ・中学生による読み聞かせに低学年児童がしっかりと耳を傾けていた。中間休みは運動場で楽しく交流した。 ・94%がわかるという回答。2015年2月末までに30,000回のアクセス数があった。	⇒	・藤森中学校での授業体験は進学への期待や楽しみを感じ取らせるものにつながった。また、部活見学ではいろいろな部活動が見学できた。 ・ホームページは、前期同様タイムリーな子ども達の様子を掲載し、学校の様子を紹介することができた。	⇒	・藤森中学校と話し合い、本年度の取組を精査し、より効果的な小中連携の計画を立案する。 ・ホームページは、各学年からタイムリーな内容を発信し、保護者・地域からアクセスしていただけるようにする。	
	4	独自の取組	情報発信の充実	積極的なホームページの更新	学級・学校だより、ホームページなどで学校様子がわかりますか	・94%がわかるという回答。2015年2月末までに30,000回のアクセス数があった。	⇒	・藤森中学校と話し合い、本年度の取組を精査し、より効果的な小中連携の計画を立案する。 ・ホームページは、各学年からタイムリーな内容を発信し、保護者・地域からアクセスしていただけるようにする。	⇒	・地域行事での児童スタッフ経験者がたくさん藤森中学校に進学しているが、子ども達の様子がなかなか見えない。 ⇒ ・中学校や卒業生とも連携を図るような取組を考えていきたい。 ・地域行事に参加できるように中学生にも積極的に声をかけし、卒業生の成長にも目を向けていく。

4 総括・次年度の課題

- ・タブレット端末などICT機器を効果的に活用するとともに、算数科において問題解決学習の学びに焦点をあて、確かな学力の定着を図る。
- ・学校図書館支援員との連携だけでなく、地域ともタイアップし、読書習慣の定着を図る。
- ・挨拶は、地域と協力しながら様々な取り組みや声かけを通して受け身の挨拶ではなく能動的な挨拶ができる児童の育成を目指す。
- ・地域行事ではより多くの児童がスタッフとして参加するように声をかけていく。
- ・高学年児童は全員で朝マラソンに取り組み、健やかな体の成長を目指す。
- ・藤中ブロック5校で本年度の取組を振り返り、より有効となる小中連携の取組を実施する。